

## 学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

## 総合学科

### 笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深め、心豊かに主体的・創造的に生きていくことのできる資質や能力を育成する。
- 個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや、成就感を体験し、学習に対する意欲や態度を育成する。

### 1年次の目標

『産業社会と人間』の時間、授業体験、社会人講話等を通して、自己を見つめ、地域や社会を考え、将来にわたる生き方あり方について考えを深める。自分の興味・関心や適性・能力等を見出し、自分に合った進路目標の決定に努める。

### 2年次の目標

目指す進路実現に向けて、自分の適性や進路希望に応じた科目選択・系列選択を行い、専門的な知識・技術を習得する。

### 3年次の目標

明確な目標意識を持ち、自分の夢や興味関心に応じた知識や技能をさらに究め、進学や就職に対応できる実践力を身につける。

### 学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

2年次以降の具体的な選択科目を決めるために、1年次では自分の個性や適性を発見し、将来の進路や生き方、学習の仕方などを学び、「なりたい自分」探しをします。講演や体験学習を通じて、自分のこととして捉え、職業研究や進学研究をし、理想とする人物の姿を思い浮かべて自分がどう生きるべきかを考えながら授業に取り組みしましょう。

2・3年次では、自分の適性や進路希望に応じた科目選択・系列選択を行い、専門的な知識・技術を習得するとともに、将来の職業生活に必要な態度や能力を養います。就職・進路の幅を広げられるよう真剣に取り組みましょう。

	教科	科目	
1	国語	現代文B	
2	地理歴史	地理A	
3	理科	生物基礎	
4	保健体育	体育	
5	保健体育	保健	
6	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	
7	芸術	音楽Ⅰ	選択1
8	芸術	美術Ⅰ	選択1
9	芸術	書道Ⅰ	選択1
10	国語	国語表現	選択2
11	数学	数学Ⅱ	選択2
12	外国語	英語理解	選択2
13	芸術	クラフトデザイン	選択2
14	家庭	服飾手芸	選択2
15	商業	ビジネスマナー	選択2

環境・緑地系列

16	農業	測量	
17	農業	環境工学基礎	
18	農業	CAD製図	
19	農業	職業ライセンス	

教科・科目		測量	単位数	4	必修	必修	選択
学年・系列・コース		2学年 総合学科					
使用教科書		実教「測量」	副教材				
目標とする生徒の将来像		測量に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、測定値の処理と測定機器の特質を理解するとともに各種土木工事の計画・設計・施工などあらゆる場面での測量の役割を理解させ、実習をふまえた実践的な能力と態度を身に付けられる学習を行う。					
評価の観点		①測量の器械・器具の取り扱い・使用方法、測量の方法などに興味・関心をもち、実際の測量を実施して主体的に行うなど課題の探究に意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付ける。 ②机上の理論と実際とを結びつける思考・判断を持ち、さまざまな条件や環境での測量を考え、その場に適した測量方法と器械操作を判断できるよう基礎的・基本的な知識と技術、創意工夫する能力を身につける。 ③測量に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、さまざまな条件に合わせた測量技術を持ち、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を理解する能力を身につける。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法		自己評価	
1学期	第1回定期考査	◇測量の歴史 測量を学ぶにあつて ◇距離測量 距離測量用器具・距離の測定 測量器械による距離測定	・測量の歴史について学び測量方法などを知る姿勢 ・測量とは何か探求する ・距離測定についての方法や器具について理解習得する ・距離測定値の補正について理解習得する ・光波測距儀・GPSによる距離測定について理解習得する	①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
	第2回定期考査	◇平板測量 平板測量の器具・方法 細部測量	・平板測量についての方法や器械器具について理解習得する ・骨組測量及び放射法について理解習得する ・平板測量の結果を用いて平面図を作成することを理解習得する	①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
2学期	第3回定期考査	◇角測量 角測量と測角器械 測角器械の構造 すえつけと視準 検査と調整 角度の観測 角測量器械の器械誤差	・測角器械の構造を実物をさわって体験し、正確な角度が測定できることを理解習得する。 ・セオドライトのすえつけ・視準作業が正確かつ迅速にできるように実習と併せて習得する。 ・測角器械は、精密器械であり、適宜検査・調整する必要があることを理解習得する。 ・望遠鏡の正位・反位観測することの必要性を理解し、観測値の計算方法やその取扱い方を習得する。 ・誤差が起こる原因について理解するとともに、誤差を消去できる観測方法を習得する	①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
	第4回定期考査	◇トラバースの測量 トラバース測量の概要 トータルステーションシステム トラバース測量の外業 トラバース測量の内業 結合トラバースの計算	・トラバースの種類と測量の精度に関する知識を深め、踏査・選点の重要性を習得する。 ・トータルステーションとトータルステーションシステムの概要と特徴を習得する。 ・トラバース測量の角誤差の配分、方位角・方位の計算、緯距・経距の計算、精度の求め方を習得する。 ・緯距・経距の誤差の調整方法を習得し、座標計算を行った後、トラバースの製図方法を習得する。	①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
3学期	第5回定期考査	◇細部測量 トータルステーションを用いた細部測量 トータルステーションを用いた測点の測設	・トータルステーションを用いた細部測量における地形・地物の作図方法に関して、具体的な実習と関連づけながら習得する。 ・トータルステーションを用いる細部測量方法を習得する。 ・CADを利用した図面作成について習得する。	①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
検定資格(時期)・諸費用(予定)		測量士補試験 実施5月 東京都で実施 受験費用2,850円 受験者は年令、性別、学歴、実務経験等に関係なく受験できます。筆記試験です。					
履修にあたって		ものづくりの基本として「測量」を学ぶ 教室での座学と実際に測量実習を行い、学んだ内容を実践して学習内容を深める。そのために測量実習では、実習服を着用する。 実習服は受講者全員が授業開時に、採寸して注文し、購入する。 測量実習では、精密で高価機械を使用するが、取扱方法について学び丁寧に扱うが、故意による破損等は修理費は個人負担とする。					

教科	農業 「環境工学基礎」	単位数	単位 2	学科・学年・コース・組	2年 総合学科 環境緑地系列
使用教科書	7 実教 工業314 環境工学基礎				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

地球の環境について特性を理解し、地球を取り巻く様々な環境問題について知識を身につける。また、環境調査や環境の変化についての知識を学ぶことにより効果的、合理的な考え方のできる態度と能力を身につける。

2 科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

地球の環境問題に焦点をあて、今後の環境について学ぶことにより、興味関心を持つことで、より快適な生活空間を考えられる態度と能力を身につけるとともに、生活環境に関する知識を高めてゆく。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
1 学期	地球と人類	1 地球の成り立ち ①地球の誕生と原始大気 ②生命の誕生と進化 ③地球の構造 ④地球上を循環する物質	・地球の誕生について学び、現在までの過程を知ること、宇宙的に見ても、地球の存在はとても貴重なものである事を学ばせる。 ・環境問題を学ぶ上で種類やそれぞれの特徴を知る必要性がある事を理解し、それぞれに適した問題解決を理解する。	授業態度 ノート 定期試験
2 学期	地球温暖化	1 地球温暖化と影響 ①地球温暖化の原因 ②地球温暖化の観測と予測 ③地球温暖化の影響 ④地球温暖化の防止策と適応策	・地球温暖化は人間の生活形態の変化による原因が大きいことを理解させる。 ・地球温暖化が人間生活や生物、植物のにとってどのように影響しているかを理解させる ・地球温暖化を抑制してゆく政策や対応策が必要なことを理解させる。	授業態度 ノート
	身近な環境問題	2 環境問題の様相 ①オゾン層の破壊 ②酸性雨 ③森林減少 ④砂漠化 ⑤種の絶滅	・オゾン層は、地球の誕生から長い年月を経過した中で誕生し、それが生命誕生と生命の維持ができていたことを学ぶ。 ・酸性雨の影響を理解することと、その原因が人間生活の豊かさが高まることと反比例して発生していることを理解する。 ・森林減少の影響と原因について理解させ再生エネルギーについての知識もあわせて理解させる。 ・地球の環境問題が様々な種の絶滅を引き起こしていることを理解しその対策を考えさせる。	授業態度 ノート 定期試験
3 学期	人と自動車	公害問題への対応 ①戦前の公害問題 ②四大公害事件 ③沈黙の春 ④公害問題への取り組み	・過去の我が国の公害問題に関して知識を深めることにより、その原因と歴史的背景を理解する。 ・四大公害事件については、過去の問題ではないことを理解し、現在も地球上のどこかで起こりうることを理解する。 ・アメリカの公害問題を学ぶことで、政策による対応や個人として知識を得ておくことの必要性を理解させる。	授業態度 ノート 定期試験
		自動車の発達 ①原動機の利用 ②角装置の構造と機能の改善 ③生産方式の改良 ④我が国の自動車の発達	・自動車の発達と地球の環境問題は切り離すこのできない課題である事を理解し、それぞれの装置の仕組みや構造を知りその役割と重要性を理解させる。	

4 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

現在の自動車社会は、人々の生活空間をより快適な方向へ導く方法として存在し、その知識技術は地球の歴史上ではごく短い時間によりはぐくまれてきた事を十分に理解させたいと考えている。

5 評価規準

評価は、次の4つの観点から行います。

A 関心・意欲・態度	25%	地球の誕生や現在の環境問題について興味関心を示し、自ら積極的に学ぶ態度があるか。
B 思考・判断	25%	環境問題の原因や地球上の生命への影響について今後役立つ知識と判断を身につけている。
C 表現・処理	25%	地球の環境問題の特徴や特性を理解し、未来における環境について重要性を理解しているか。
D 知識・理解	25%	地球の環境問題についての基本的な知識を十分に理解しているか。

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目		CAD製図	単位数	2	①(必修)・②(必修)・③(選択)	
学年・系列・コース		2学年 総合学科				
使用教科書		「建築CAD」	副教材	建築CAD問題集		
目標とする生徒の将来像		製図の基礎をじゅうぶんに把握させ、建築土木製図に関する基本的な知識と技術を習得させ、図面を正しく読み、作成する能力を養う。また、建築土木製図の重要性を理解させ、測量製図、設計製図、CADの基礎的な技術について習得させる。				
評価の観点		①各種建築工事に使用される設計図書を作成することに興味・関心をもち、建築設計製図の意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して、主体的に学習に取り組むとともに、建築技術者としての望ましい心構えや態度を身につけている。 ②各種建築工事に使用される設計図書作成に関する諸問題を、総合的な見地からの確に把握し考察を深め、建築設計製図における基礎的・基本的な知識を活用して適切に思考・判断し、創意工夫した製図法で的確に表現する力を身につけている。 ③各種建築工事に使用される設計図書作成に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、創意工夫して表現する設計製図の技能を身につけている。				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1 回 定期 考査	◇「建築設計製図」を学ぶにあたって 1 建築の設計と製図 2 建築設計製図の学び方 ◇製図の基本 1 製図を行う環境 2 線 (演習課題1 製図の基礎 線の練習)	・企画・計画・設計の段階、建築物が完成するまでの、設計者の役割を身につける。 ・建築計画・建築構造・建築構造設計・建築施工・建築法規などの知識が必要なこと、基礎知識を総合的にまとめる能力を身につける。 ・製図の種類と用途、正しい使用方法を身につける。 ・線の組み合わせや図記号の使用方法を身につける。		①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2 回 定期 考査	◇製図規約 1 製図に用いる線 2 製図に用いる文字 (演習課題1 製図の基礎 文字の練習) 3 図面 4 図の配置	・建築製図は、JISの規格のみではなく、他分野にない記号化が多くみられ、また関連する基礎知識の幅も広いことを理解習得させる。		①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2 学期	第3 回 定期 考査	◇投影法 1 投影法とは (演習課題5 投影法の基礎 一点透視投影法の作図、二点透視投影法の作図) 2 陰影のつけ方	・美しい建築物の中にある構成の比率や基本寸法を、実例や作図を通して身につける。 ・平面的な表現・立体的な表現ともにその特徴を理解させ、設計演習で応用できることを身につける。 ・コンピュータを活用して生徒に関心のある建築物を検索させ、表現方法について調べ、発表するなど方法を身につける。		①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第4 回 定期 考査	◇ 建築の設計製図 1 計画と設計の流れ 2 設計に用いられるいろいろな図面 3 図面の分類とその役割	・通り芯、柱壁、階段(製図例)をもとにトレース技術を進めているので、適宜製図例を使用して技術を習得する。 ・木構造の基礎の断面寸法や、小屋梁、床梁などの構造材、垂木や根太などの補助構造材の断面寸法について理解習得する。		①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3 学期	第5 回 定期 考査	◇ CADによる設計製図 1 建築CADの種類 2 建築CADの応用 3 CADシステムの基礎知識	・CADを利用すると「精度の高い図面がかける」「修正変更等が簡単に行える」「保管や検索が簡単にできる」等を理解習得する。 ・図面の作成は、使用するアプリケーションソフトによって表現方法が変わることを理解習得させる。		①出席状況 5 ②学習状況 5 ③ワークシート 5 ④班別実習状況 5 ⑤課題提出 10 ⑥定期考査 70	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
検定資格(時期)・ 諸費用(予定)		建築CAD試験 実施1月 本校で実施 受験費用7,000円 受験者は年齢、性別、学歴、実務経験等に関係なく受験できます。 CADソフトを使っの技術試験です。				
履修にあたって		ものづくりの基本として「CAD製図」を学ぶ CADソフトを利用して、演習問題を進めて行く。				

教科	農薬「職業ライセンス」	単位数	単位 2	学科・学年・コース・組	2年総合学科 環境緑地系列
使用教科書	三種 危険物取扱受験教科書 向学院				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

危険物取扱者試験において合格を目指した効果的、能率的な考え方でできる態度と能力を身につける。

科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

危険物取扱者の試験問題に焦点をあて、その内容について学ぶことにより、興味関心を持つことで、より安全な生活を考えられる態度と能力を身につけるとともに、生活環境に関する知識を高めてゆく。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
1 学期	燃焼および消化に関する基礎知識	1 燃焼の基礎知識 ①燃焼の定義 ②燃焼の三要素 ③燃焼の難易 ④液体の燃焼 ⑤引火点・発火点 ⑥燃焼範囲・爆発範囲 ⑦燃焼の基礎知識問題	・燃焼について物理的、化学的に関する知識を理解することで、危険物について学ばせる。 ・点火源、酸素、可燃物の三要素を学び、消化の知識に役立てる。 ・燃焼に関する知識を得ることにより危険性と消火方法を理解する。	授業態度 ノート
		2 消化の基礎知識 ①消化の仕組み ②消化剤の特色 ③危険物取扱のできる危険物の消化方法	・除去効果、窒息効果、冷却効果などの効果と消化方法を化学的にとらえ、それぞれに適した消化方法を理解する。 ・消化剤には、水、強化液、泡、ハロゲン、炭酸水素ナトリウム、リン酸塩などのそれぞれの特徴を理解し、適した消化剤を使用する知識技術を身につける。 ・電気火災を含めた消火方法を理解する。	
2 学期	危険物の危険性	3 危険物の性質 ①共通する性質 ②燃焼範囲 ③危険物の廃棄と焼却について ④油類の流出の措置	・危険物それぞれについて物理的・化学的の性質を知ることによって危険性や消火方法を選択できる知識を身につける。 ・酸素と危険物の混ざる割合によって燃焼範囲にそれぞれ特徴がある事を理解する。 ・危険物の廃棄や焼却について確実に理解する。 ・油類が流出したときの措置方法を理解する。	練習問題 定期試験
		4 危険性について ①第1石油類 ガソリン ②第2石油類 軽油、灯油 ③第3石油類 重油、グリセリン ④第4石油類 キヤ-油、他 ⑤動植物油	・それぞれの危険物についての性質と危険性を理解し、それぞれで取り扱う上で注意しなければならないことを理解する。	危険物取扱者試験受験
3 学期	危険物に関する法令	1 法令 ①消防法における用語と意味と貯蔵 ②危険物の取扱と貯蔵 ③貯蔵量、取扱の技術上の基準 ④製造所等の設置と用途廃止 ⑤製造所等の保安制度 ⑥使用停止命令条件 ⑦予防規定 ⑧免許状の種類と交付	・危険物の取扱に関する法令について細部にわたりを理解し、試験問題に備える態度の育成。	危険物取扱者試験受験
	危険物に関する政令	2 政令 ①貯蔵所と取扱所の区分 ②製造所の位置、構造、設備の基準 ③貯蔵所の位置、構造、設備の基準	・危険物の取扱に関する法令について細部にわたりを理解し、試験問題に備える態度の育成。危険物に関する	
	危険物の規制に関する規則	3 規則 ①危険物の運搬に関する基準 ②消火設備区分 ③消火設備の設置基準 ④その他	・危険物の取扱に関する法令について細部にわたりを理解し、試験問題に備える態度の育成。	

4 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

危険物取扱者試験を受験し、合格を目指しての授業展開となるため、それぞれのやる気と家庭での学習時間確保が重要となってくる筈なので、日頃から学習する態度と姿勢を身につける努力が必要となる。

5 評価規準

評価は、次の4つの観点から行います。

k

A 関心・意欲・態度	25%	危険物のと環境問題の関連性について興味関心を示し、自ら積極的に学ぶ態度があるか。
B 思考・判断	25%	危険物の性質や消化方法について今後役に立てる知識と判断を身につけている。
C 表現・処理	25%	指定された危険物のそれぞれ特徴や特性を理解し適した消化方法を理解しているか。
D 知識・理解	25%	危険物取扱試験を受験した結果による。